

東海生研 ～ メールマガジン 第167号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

**** 《もくじ》 ****

- 1. 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業
- ☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナー (11月28日)
- ☆ アグリビジネス創出フェア 2018 in 東海 (31年1月29～30日)
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
- ☆ 平成30年度東海農政局「食品安全セミナー(11月)」 (11月29日)
- ☆ 平成30年度東海地域マッチングフォーラム (11月15日)
- ～ 土壌養分の簡易計測と地域資源の利用による施肥コスト削減～
- ☆ 植物ゲノム編集技術ワークショップ (11月16日)
- ☆ 中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 11月度研究会 (11月22日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- ☆ アグリビジネス創出フェア 2018 (東京ビッグサイト) (11月20日～22日)
- ☆ 農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
- 平成30年度食料生産地域再生のための先端技術展開事業のうち社会実装促進
- 業務委託事業 (第2回公募) (農林水産省農林水産技術会議事務局)
- ☆ 平成30年度 研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)
- 企業主導フェーズ: NexTEP - A タイプ
- ☆ 平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP (JST)
- 未来創造ベンチャータイプ
- ☆ 平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
- ☆ 平成30年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!) (総務省)
- ☆ 平成30年度 研究開発型ベンチャー支援事業/企業間連携スタートアップの
- 事業化支援 (第2回公募) (NEDO)
- ☆ 平成31年度 NEDO 先導研究プログラム/新技術先導研究プログラム (NEDO)
- ☆ 民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

◆ 1 ◆ 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業

☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナーの開催について

去る9月4日に開催予定でしたが、台風21号の接近のため中止した第2回セミナーを下記の通り改めて開催することにしましたので、ご参加いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

【開催日時】平成30年11月28日(水) 13:00～17:00

【開催場所】ウインクあいち(愛知県産業労働センター) 1003会議室
(名古屋市中村区名駅4丁目4-38 Tel 052-571-6131)

【開催案内】<http://www.biotech-tokai.jp/archives/2179>

【主催】農林水産省、NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

【アクセス】・JR名古屋駅桜通口からミッドランドスクエア方面 徒歩5分
・ユニモール地下街 5番出口 徒歩2分

【内容】

○林産部会 13:00～13:45

「薬用植物由来ポリフェノールと生物活性」

岐阜大学応用生物科学部応用生命科学課程 助教 山内恒生 氏

○水産部会 13:45～14:30

「愛知県のアサリ漁業と減耗要因の検討」

愛知県水産試験場漁業生産研究所 主任研究員 松村貴晴 氏

○食品部会 14:30～15:15

「果実(柿等の規格外品)のペクチンを利用した介護用食品・機能性表示食品の開発」
岐阜大学応用生物科学部 教授 矢部富雄 氏
(休憩)

○作物部会 15:30～16:15

「自家受粉が可能なニホンナシ新品種「なるみ」等のナシ品種育成の現状」

農研機構果樹茶業研究部門 品種育成・病虫害研究領域上席研究員 齋藤寿広 氏

○畜産部会 16:15～17:00

「肉牛生産におけるSPAY(卵巣摘出手術)のメリットと活用事例」

モーモークリニック 院長 大久保幸弘 氏

『技術相談』のある方は受付のみさせていただきます 後日、対応させていただきます。

*情報交流会 17:15～18:45(同じ会場 1003)

会費 2,500円(事前申し込みが必要)

【参集範囲】特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会会員、農林水産・食品産業関連企業、農業団体、食品関係団体、大学・高校等教育機関、国立研究開発法人、独立行政法人、公的試験研究機関、行政機関、生産者、その他

【参加費】 無料

【参加申込】上記の「開催案内」の URL から「参加申込書」を取り出し、必要事項をご記入の上、ファックス又は電子メールでお送り下さい。

.....

☆アグリビジネス創出フェア2018 in 東海

【開催日時】平成31年1月29日10:00～30日16:00

【開催場所】ウインクあいち 6階展示場

【開催概要】

開会式(29日)

研究発表(29日午前 研究・教育機関の研究成果、企業の研究成果予定)

ブース展示(29日～30日)

企画展示(1)いちごマッチングフォーラム in 東海

企画展示(2)東海・近畿地域の農林水産物加工品の展示

ポスター展示

技術相談コーナー(29日～30日随時)産学連携支援コーディネータが対応

【出展募集の開始】<http://www.biotech-tokai.jp/archives/2250>

◆2◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆平成30年度「食品安全セミナー(11月)」

【開催日時】平成30年11月29日(木) 13時30分～16時

【場所】名古屋能楽堂(名古屋市中区三の丸1-1-1)

【主催】東海農政局

第一部 13:30～14:35

「食品安全と行政の取組」

講師：東海農政局 消費・安全部職員

「GAPについて」

講師：東海農政局 生産部 生産技術環境課長 長友 秀昌 氏

第二部 14:50～15:50

「食中毒を防ぐために」

講師：中部大学 応用生物学部 食品栄養科学科 教授 森山 龍一 氏

【開催案内】<http://www.maff.go.jp/tokai/shohi/seikatsu/iken/seminar/index.html>

【参加】参加費無料、定員 先着 40 名になり次第締め切られます。

【参加申込】上記開催要領の URL から FAX 又はインターネットでお申込み下さい。

【お問い合わせ】消費・安全部 消費生活課 担当者：森(啓)、奥川、青木様

代表：052-201-7271(内線 2810)

ダイヤルイン：052-223-4651

FAX：052-220-1362

申込方法、参加申込書、会場案内図、お問い合わせ先は、上記の開催案内にございます。

食品安全セミナー（第2部）今後の予定

<http://www.maff.go.jp/tokai/shohi/seikatsu/iken/seminar/attach/pdf/index-12.pdf>

.....
☆植物ゲノム編集技術ワークショップ

【開催日時】平成30年11月16日(金) 13:30～16:30

【開催場所】アスト津4階 研修室A (三重県津市羽所町700番地)
近鉄、JR津駅から徒歩1分

【詳細】<http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2018/09/082669.html>

【内容】上記の「詳細」参照

【主催】農研機構 生物機能利用研究部門

【参加申込】上記の「詳細」にある申込みサイトを利用してお申込み下さい (11月12日
締切)。参加費無料

.....
☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 11月度研究会

【開催日時】平成30年11月22日(木) 14:00～17:00

【開催場所】名古屋市市民活動センター 研修室
ナディアパーク・国際デザインセンタービル 6階
(名古屋市中区栄三丁目18-1)

【行事ご案内】<https://www.crn2011.jp/>

【講師】1. 14:00～15:20

「伊勢湾の海洋ゴミと長期的水質変化」

四日市大学環境情報学部 千葉 賢 氏

2. 15:30～17:00

「三河湾の漁業と環境」

愛知県水産試験場(本場) 漁場環境研究部長 蒲原 聡 氏

【会費】会員 無料、 会員外 1,000円 (学生500円)

定員 60名

【懇親会】講師を囲んでの懇親会を予定

自由参加・当日受付・第1部終了後に締切、 会費 3,000円

会場 中国料理・シルクロード上前津店(名古屋市中区大須4-11-61)

◆3◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○アグリビジネス創出フェア2018

【開催日時】平成30年11月20日(火)～22日(木) 10:00～17:00

【開催場所】東京ビッグサイト 西-1ホール(東京都江東区有明3-11-1)

【開催概要】<http://agribiz-fair.jp/about.php>

【東海生研分展示】西－1 ホールのメインステージ近くの「人ゾーン」に「地域産学連携コンソーシアム」の展示場所があり、この一角に東海生研分を展示しています。展示は、(1)「テッポウユリ類育種コンソーシアム」、(2)黒ウコンジャパン(株)、(3)大有コンクリート工業(株)、(4)三健食品(株)、(5)NPO 法人東海生研が行います。

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記 URL の通りです。<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。<http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 平成 30～31 年度競争的研究資金等について

☆平成 30 年度食料生産地域再生のための先端技術展開事業のうち社会実装促進業務委託事業（第 2 回公募）（農林水産技術会議事務局）

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/181025.html>

分野等：被災地内に設ける社会実装拠点を核として、情報発信、現場指導、技術研修等を通じて、食料生産地域再生のための先端技術展開事業における研究成果の社会実装を促進する。

公募期間：平成 30 年 10 月 25 日～11 月 30 日

☆平成 30 年度 研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）（JST）

企業主導フェーズ：NexTEP-A タイプ

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h30nextep-a-1.html>

分野等：企業ニーズを踏まえた企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの実用化開発を支援する。

公募期間：平成 30 年 11 月 30 日締切（第 2 回）

平成 31 年 3 月 29 日締切（第 3 回）

☆平成 30 年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ （JST）

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成 30 年 11 月 30 日締切（第 2 回）

平成 31 年 3 月 29 日締切（第 3 回）

☆平成 30 年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ （JST）

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成 30 年 11 月 30 日締切（第 2 回）

平成 31 年 3 月 29 日締切（第 3 回）

☆平成 30 年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!) (総務省)

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000239.html

分野等：ICT そのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野と ICT との融合 (ICT × ○○) を図るなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、POC (Proof of Concept：概念検証) に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成 30 年 4 月 12 日～平成 31 年 3 月 29 日

☆平成 30 年度 研究開発型ベンチャー支援事業/企業間連携スタートアップの事業化支援 (第 2 回公募) (NEDO)

http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100192.html

分野等：事業会社と連携して事業開発を行う研究開発型ベンチャーを支援する。

公募期間：平成 30 年 10 月 18 日～11 月 22 日

☆平成 31 年度 NEDO 先導研究プログラム/新技術先導研究プログラム (NEDO)

http://www.nedo.go.jp/koubo/CA1_100193.html

分野等：(1)省エネルギー、新エネルギー、CO2 削減等のエネルギー・環境分野 (エネルギー・環境新技術先導研究プログラム)

(2)新産業創出に結びつく産業技術分野 (新産業創出新技術先導研究プログラム)

まず、RFI(本事業で取り組むべき研究開発内容についての情報収集)が行われ、提供された情報を参考の上、対象となる研究課題が設定され公募が行われます。

公募期間：平成 31 年 2 月上旬～4 月中旬、RIF の締切日 平成 30 年 11 月 30 日

<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報をご覧ください (下記の URL の後半)。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆食品関係

○マウス加齢性難聴を指標とした抗老化食品素材の短期間スクリーニング評価

本研究成果は、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 食品研究部門が代表機関となって実施された農食研究推進事業（シーズ創出ステージ）によるものです。食品の機能性に関して、老化を対象とした研究は、長期間を要するために進んでいません。本研究では、動物試験レベルで抗老化効果の根拠を得るために、マウス加齢性難聴の抑制効果を指標として、抗老化食品素材の探索が行われました。その結果、マウス加齢性難聴の抑制効果が有意に認められたのは、42種類の農産物素材のうちでは、春菊及びキンカン、8種類の乳酸菌のうちでは乳酸菌 H61 株でした。また、マウス加齢性難聴抑制効果と相関が高いバイオマーカーが、血中代謝物、乳酸菌中代謝物に認められました。

・農林水産省「研究紹介 2018」

http://www.affrc.maff.go.jp/docs/public_offering/agri_food/2018/27008a.html

・大池 (2017) タマゴによるマウス加齢性難聴の抑制. *Nippon Shokuhin Kagaku Kogaku Kaishi*, 64(2), 104-107.

https://www.jstage.jst.go.jp/article/nskkk/64/2/64_104/_pdf/-char/ja

☆園芸関係（花き）

○植物成長調整剤によるコショウランの品質向上技術を開発

本研究成果は、愛知県農業総合試験場で開発されたものです。コショウラン栽培では、長い花茎や、花数の多い鉢物の生産が需要者から求められています。そこで、本研究においては、濃度 100ppm のジベレリン溶液を長さ 5~20cm の花茎に 1 週間おきに 2 回散布することにより、花茎を長を 6~7cm 伸ばすことができ、また、濃度 30ppm のベンジルアデニン溶液を蕾が 6~7 個着いた花茎の先端に 1 週間おきに 10 回処理すると、花数を 11.7 輪増やすことができました。今後、両剤の農薬登録を目指します。

・愛知県農業総合試験場 HP：2017 年愛知県農業総合試験場の 10 大成果

<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/255339.pdf>

☆病虫害関係

○輸出入植物検疫処理の円滑化等に資する新たなくん蒸技術の確立

本研究成果は、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門が代表機関となって実施された農食研究推進事業（実用技術開発ステージ）によるものです。生果実を輸出する場合に、(1)圃場で発生する害虫の防除技術、(2)従来使用されてきた臭化メチルに替わる新たなくん蒸技術が必要となっています。そこで、本研究では、臭化メチルの代替え技術として、ヨウ化メチル及びリン化水素によるくん蒸技術を開発するとともに、モモ、カンキツ、ブルーベリー生果実の害虫の圃場での防除技術を開発しました。具体的な研究成果としては、(1)サイロにおける穀物類のリン化アルミニウムの空間部投薬循環技術が開発されました。(2)上記の生果実等についてヨウ化メチルによるくん蒸技術が確立され、「くん蒸基準（案）」が作成されました。(3)上記の生果実の収穫前の被害を可能な限り防ぐための対象害虫の圃場での防除技術が開発されました（農林水産省「研究紹介 2018」から引用）。

- ・農研機構 HP：「輸出入植物検疫処理の円滑化等に資する新たなくん蒸技術の確立」
成果事例集

https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/pub2016_or_later/files/kunjo-jirei_201803.pdf

☆水産関係

○幻の赤海苔「カイガラアマノリ」の農水工連携による陸上養殖技術の開発

本研究成果は、国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産大学校が代表機関となって実施された農食研究推進事業（実用技術開発ステージ）によるものです。カイガラアマノリは、東京湾、伊勢湾及び瀬戸内海の一部で生育する希少な海藻です。これまで瀬戸内海沿岸の干潟で本種の着生基盤による養殖が行われてきましたが、冬季の重労働と不安定な生育環境により、収穫量が激減しています。そこで、本研究により、カイガラアマノリの陸上養殖技術が開発され、「カイガラアマノリの陸上養殖のてびき」が作成されました。陸上養殖されたカイガラアマノリは、天然産と同様のアミノ酸組成で、健康機能性として抗アレルギー成分を含有することが確認されました。現時点の生産量は、1か月で500L水槽1基当たり2.8kgであり、水槽40基、年14回の収穫、常勤1名、パート2名などの生産規模・体制で黒字化することが示されました（農林水産省「研究紹介2018」から引用）。

- ・農林水産技術会議事務局 HP：幻の赤海苔「カイガラアマノリ」の農水工連携による陸上増養殖技術の開発

http://www.affrc.maff.go.jp/docs/public_offering/agri_food/2018/27029c.html

- ・農林水産省「研究紹介2018」：

http://www.affrc.maff.go.jp/docs/public_offering/agri_food/2018/pdf/27029c.pdf

.....

編集後記

最近の国際情勢は大きな出来事が多く目が離せません。10月31日にはオーストラリアがTPP11（環太平洋連携協定）の批准を終え、加盟11か国のうち発効に必要な6か国が批准し、今年12月30日に発効することになります。また、日欧EPA（経済連携協定）の国内手続きのための法案が11月6日に国会に提出され、今国会で承認されまると、来年2月1日に発効することになりそうです。両協定が発効すると日本の実質GDP（国内総生産）は大幅に押し上げられると予想されています。一方、海外からの農林水産物の輸入品の関税の段階的引き下げ、あるいは関税撤廃なども予定され、大きな影響がありそうです。更に、米国の中間選挙が終わり、来年1月には日米物品貿易協定の交渉も始まります。来年以降、これら協定の発効に伴う日本農業への影響の克服に向け正念場を向かえることになります。

ところで、最近読んだ本に、田中潤・松本健太郎著「誤解だらけの人工知能～ディープラーニングの限界と可能性～」(光文社新書：2018年初版発行)があります。筆者の田中氏は、人工知能を使った対話エンジンなどを開発するベンチャー企業の代表を務め、人工知能の現状にたいへん詳しい専門家です。松本氏は情報学を専門とし、政治、経済、文化などを分析・予測する仕事をされています。情報のことが分かった松本氏が、人工知能の

専門家である田中氏に的確な質問をして答えてもらうという形で本書が編集されていますので、難しい内容が非常に分かりやすくなっています。

人工知能の核心をなすディープラーニングの手法を駆使することによって、将棋、囲碁等の世界では、既に名人が人工知能にかなわなくなっていますが、人工知能の導入を検討あるいは構築にかかっている業界も少なくありません。しかし、著者は、現段階におけるディープラーニングの特徴、限界などを良く認識しないと大きな間違いとなることを強調しています。特に、画像識別などの識別能力は極めて優れていますが、演繹的能力はまだ殆どないというのが現状のようです。従って、人工知能によってできること、難しいことが自ずと分かってきます。しかし、この先どうなるのかについて、2020年代、30年代、45年以降と分けて、それぞれの時代に人工知能は何ができるようになっていくのかを予想しています。将来的に、私たちは社会に浸透する人工知能にどのように対応すべきかについても述べています。本書は、AI企業の開発当事者が、人工知能の現在と未来をどのように考えているのかを知るための貴重な読み物ですので、企業人必読の書ではなからうかと思いました。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2*y4.dion.ne.jp (*を@に書き換えてください)

U R L <http://www.biotech-tokai.jp/>